

幼児における身近な素材（ダンボール・布・新聞紙）を用いた遊びの特徴

**The characteristics of the play using familiar materials
(corrugated cardboard・cloth・newspaper) in the infants**

高 原 和 子・瀧 信 子・矢 野 咲 子

Kazuko Takahara・Nobuko Taki・Sakiko Yano

幼児における身近な素材（ダンボール・布・新聞紙）を用いた遊びの特徴

The characteristics of the play using familiar materials (corrugated cardboard・cloth・newspaper) in the infants

高原和子・瀧 信子*・矢野咲子*

Kazuko Takahara・Nobuko Taki・Sakiko Yano

キーワード：ダンボール遊び，布遊び，新聞紙遊び，5歳児，環境設定

はじめに

「幼稚園教育要領」¹⁾「保育所保育指針」²⁾「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」³⁾（以下3法令）では，教育及び保育の基本を踏まえ，「豊かな体験を通じて，感じたり，気付いたり，分かたり，できるようになったりする」「気付いたことや，できるようになったことなどを使い，考えたり，試したり，工夫したり，表現したりする」「心情，意欲，態度が育つ中で，よりよい生活を営もうとする」を掲げ「資質・能力を一体的に育むよう努めるもの」とされている。そのため，保育者には，それらが体験できる保育環境を構成し，工夫することが求められている。

また，幼児期の教育・保育においては，認知能力だけでなく，非認知能力の獲得が重要視されてきている。それは近年の海外での研究により，幼児期の教育や保育の質がその後の育ちや学びに影響すること，そしてそれが生涯にわたって影響すること⁴⁾等が示されたことによる。この「非認知能力」とは，記憶や学習において獲得する認知能力に対し，目に見えない感情や心の動きといったような，数値化しにくい分野の能力のことを指し，社会情動的スキルとも言われ，幼少期ほど身に付きやすいと考えられている。そのため，3法令の改訂（または改定）においても「非認知

能力」に関わる内容が多く盛り込まれ，よりよい環境を作ることが子どもたちの非認知能力，社会情動的スキルを育てていく上でも重要であるとされている。

一方，文部科学省は，平成19年度から21年度にかけて「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」を実施し，その調査結果を踏まえ，幼児期運動指針策定委員会による幼児期における運動の在り方についての指針策定作業が行われ，2012年に「幼児期運動指針」⁵⁾と，それを具体化した「幼児期運動指針ガイドブック」⁶⁾が取りまとめられた。この幼児期運動指針では，「適切に構成された環境の下で，幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に，体を動かすことを通して，生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための基礎を培う」と謳われ，①多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること，②楽しく体を動かす時間を確保すること，③発達の特性に合った遊びを提供することが上げられている。そして，幼児が遊びを通して，環境と関わりながら主体的に身体活動を実践することが重要とされている。

このように，3法令や幼児期運動指針が示す内容から，保育現場においては幼児自らが環境に関わり，自発的に活動し，様々な経験を積んでいくことができるような配慮が必要とされ，保育者には，「幼児自らすすんで楽しくからだを動かす機会が持てるような十分な環境設定とその工夫」が求められている。

このことから我々は以前より，幼児期におけるイ

* 福岡こども短期大学

メージをもって主体的にからだを使って遊ぶことによる多様な動きの獲得と豊かな感性を育むための保育環境の工夫を図ることを目的に、幼児の活動における環境設定について検討してきた。特に、身近にある素材を使用した実践研究をすすめており、これまで、素材として「ダンボール」や「布」を使用した遊びの実践・分析を試みてきた。

基本的動作の検証においては、素材を利用した環境設定は、幼児期に必要な基本的動作を十分出現させ、幼児の多様な動きの経験に繋がることが確認された^{7, 8, 9, 10, 11, 12)}。この先行研究から、我々がすすめている素材を利用した環境設定は、幼児自らの主体的な身体活動を引き出す環境としての有用性が示唆された。

また、これら素材を利用した環境設定での幼児の遊びを観察していると、遊び始めは様々な操作を試みながら単独で遊ぶが、やがて他児と共通の遊びを見つけ、協同的な遊びに発展していく様子が見られた。また、他児の遊びに触発されて遊びを模倣したり、挑戦したりする幼児や、素材の性質に気づき、素材を生か

した遊びを思考・工夫し独自の遊びに発展させる幼児など、多様な遊びの展開がみられた。そこで、5歳児を対象に「5領域」のねらい及び内容の達成度について検討した。その結果、身近な素材を使った環境設定でも十分に保育内容「5領域」のねらい及び内容を達成できることが確認された¹³⁾。

さらに、これまでの先行研究からは、幼児は遊びの中で、素材の特徴を活かした操作方法を創意工夫し、様々なイメージを持って遊び込み活発な身体活動・身体表現遊びへと発展することも確認している^{14, 15)}。

これらのことから、素材を利用した環境設定は、幼児自らの主体的な活動を引き出す環境として有効であることが確認された。

これらの先行研究を踏まえ、さらに素材遊びの検証を深めることを目的に、これまで実施してきた身近にある素材の「ダンボール」と「布」に、保育現場で頻繁に用いられている「新聞紙」を加え、幼児の素材を使った遊び（身体活動・身体表現遊び）について素材の違いに着目して検証した。

【表1】素材遊びの人数および実施場所、実施時期

素材遊び	保育施設	人数	実施場所	実施時期
ダンボール遊び	Aこども園	20	ホール	2016年1月～ 3月
	B保育所	18	保育室	
	C保育園	15	小体育館	
	D幼稚園	13	プレイルーム	
布遊び	Aこども園	17	ホール	2017年6月～ 2018年2月
	B保育園	19	保育室	
	C保育園	17	小体育館	
新聞紙遊び	Aこども園	22	ホール	2021年9月
	B保育園	19	保育室	

方 法

(1) 研究対象

保育施設（保育所・幼稚園）に通う5歳児を対象に、素材（ダンボール・布・新聞紙）を使用した遊びをそれぞれ実施した。各素材、遊びの人数、実施場所、実施時期は表1のとおりである。

(2) 素材遊びの実施方法（環境設定）

本研究で用いた素材（ダンボール、布、新聞紙）の形状および環境設定については図1に示す。これらの素材を幼児が自由に使えるように十分な数量を準備した。

遊びの時間は15～30分間で、事前に幼児に対し素材を示しながら①時間いっぱい自由に素材を使って遊べること、②ただし、用意した素材以外の物は使えないこと、③素材は十分にあるが、足りなくなったら友だちと順番に使うことを伝えた。その他、遊びの内容については幼児の自主性に任せた。なお、保育者および研究者（筆者）らは、指導や援助、声かけなどは行わず、安全管理と危険回避のみ行った。

(3) 記録および観察方法

遊びの様子はビデオカメラで撮影し記録した。その記録映像を基に、素材を使った様々な遊び（身体活動・身体表現）が出現するたびに動画を停止し、その静止画像を保存するとともにその内容を記録した。この静止画像は、身体活動・身体表現の分類・分析の際の確認に用いた。ただし、素材を使わない遊びや、失敗などで活動が途中で終わったもの、完了されなかったものについては、データから除外した。

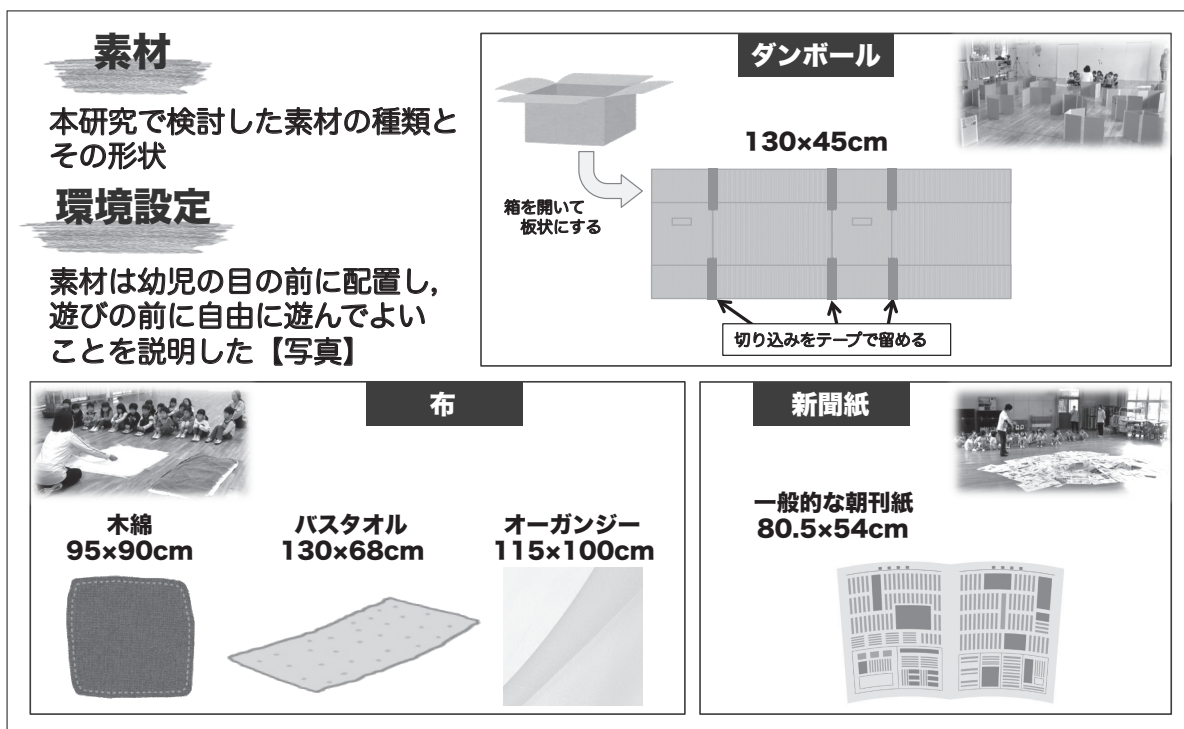
(4) 観察記録内容

予め記録表を作成し、新たな遊びが出現する度にその内容を記録した。記録の内容は、身体活動・身体表現の出現時刻、遊び（動作）の具体的な内容、身体活動・身体表現の分類、素材の使い方、仲間との関わりである。また、イメージを持って遊び込んでいる時の幼児の言葉や、その様子から幼児がイメージしているものを推測し記録した。

(5) 倫理的配慮

本研究の実施にあつては、事前にそれぞれの園の保育者と保護者に対し研究の趣旨を説明し、ビデオ撮影の承諾と同意を得て実施した。また、その際、本研究における収録映像は、研究のみに使用することも伝えた。

【図1】素材（種類と形状）と環境設定



結 果

遊びの実践の映像からは、3つの素材遊びとも時間いっぱい途切れることなく遊び込んでいる幼児の姿が確認された。その遊びは、幼児を取り巻く身近な生活体験を取り入れたものや、そのものになりきって遊ぶ「ごっこ遊び」にみられる模倣遊びが中心であった(図2)。

その様子を素材の使い方のカテゴリーに分けて、出現した遊びとその遊びが表出した素材を以下に示す。

(①ダンボール, ②布, ③新聞紙)

(1) 床に置く (図3)

- ・布団にして寝る (敷いてその上に寝る, 2枚重ねて間に入る): ①②③
- ・風呂, 家にして遊ぶ (立てて囲う) ①
- ・トンネルにして遊ぶ, かくれんぼ (中に入る, 隠れる): ①②
- ・迷路にして追いかける (立てる): ①
- ・座布団, ままごと遊び (敷いて座る): ②③
- ・乗ってジャンケン遊び, 敷きつめた上を這って移動する (床に敷き上に乗る): ③

(2) 畳む・丸める・包む (図4)

- ・太鼓 (畳んでたたく): ①
- ・当てっこ遊び (筒状にして的をつくり, 筒状にした素材で当てる): ①
- ・洗濯物畳み (小さく畳む): ②
- ・財布, リボン, 飛行機をつくり遊ぶ (折ってつくる): ③
- ・剣にして遊ぶ (丸めて棒状にする): ③
- ・棒にして遊ぶ (ねじって棒状にする): ③
- ・ボールにして遊ぶ (結ぶ・丸める): ②③
- ・プレゼント, お団子, 爆弾 (素材を素材で包む): ②③
- ・頭巾, 帽子 (折って頭に載せる): ②③

(3) 床に敷き滑らせる (図5)

- ・サーフィン, スノーボード (走り乗って滑らせる) ①②③
- ・スキー, スケート (足下に敷いて, 滑りながら進む): ②
- ・背泳ぎ (仰向け寝て滑らせる): ①

- ・オットセイ・アザラシ歩き (上にうつ伏せで乗り, 這う): ②③
- ・自動車, ゴーカー, ソリ (上に座り, お尻で滑りながら進む): ①②
- ・氷上歩き (敷きつめた上を歩く音を楽しみながら移動する): ③
- ・雑巾がけ (床を滑らせ押しながら進む): ①②③

(4) 操作する (図6)

- ・バス, 電車, 馬車 (持ってからだを囲って動く): ①
- ・ソリ遊び (友だちを乗せて引っばる): ①②
- ・鳥になって動く (羽のように動かす): ①②
- ・飛行機 (両手に1枚ずつ持って走る) ①②③
- ・たこあげ (片手で持って走る): ②③
- ・ヘリコプター, プロペラ, コマになって回る (振り回す): ①②
- ・車, ゴーカー (床に立てて置き引きずりながら進む): ①
- ・放り投げる (頭上に高く投げる): ②③
- ・からだキャッチ (投げてからだに載せる): ②③
- ・綱引き (引っ張り合う): ②
- ・縄跳び (回しながら跳ぶ): ②
- ・戦いごっこ (振り回し, 相手を叩く): ②③
- ・盾 (からだの前に広げて攻撃をかかわす): ②③
- ・サッカー (丸めた素材を蹴る): ③
- ・落ち葉, 雪 (ちぎって投げる): ③
- ・お掃除 (素材を箒にして掃く): ③



(5) からだにつける (図7)

- ・キャタピラー, ミノムシ (からだに巻きつけながら転がる): ①
- ・ロボット (全身を覆い, 移動する): ①
- ・おばけ, ゾンビ (頭からすっぽりかぶる): ①②
- ・隠れ蓑の術 (壁際に立ち, 前に垂らして隠れる): ①②
- ・忍者 (頭に巻いて歩く・走る): ②③
- ・テント (頭から被り小さくなる): ①②③
- ・膝掛け (座って足の上に掛ける): ①②③
- ・仮面 (顔にかける): ②③
- ・蓑傘, カップ (頭からからだにかけて覆う): ①③
- ・マフラー (首に巻く): ②③
- ・マント (肩から背中に垂らす): ②③

【図2】素材遊びにみられた幼児の遊び



【図3】素材の使い方による遊び「床に置く・敷く」

素材の特徴が現れた遊び		共通して現れた遊び ＜布団にして寝る＞
 ダンボール		
 布		
 新聞紙		

【図 4】 素材の使い方による遊び「畳む・丸める・包む」

素材の特徴が現れた遊び			共通して現れた遊び ＜折って畳む＞		
	畳み重ねてたたく 	当てっこ遊び 	畳んで作る 		
	お団子 	プレゼント作り 	ボール 	小さく畳む 	洗濯物畳み 
	爆弾 	ねじり棒 	髪飾り 	折り紙 	
	鋭い剣にする 		飛行機 		

【図 5】 素材の使い方による遊び「床に敷き滑らせる」

素材の特徴が現れた遊び			共通して現れた遊び ＜押して滑らせる＞		
	サーフィン 	背泳ぎ 	自動車 	雑巾がけ 	
	スキー 	オットセイ 	ゴーカート 	雑巾がけ 	
	スノーボード 	アザラシ歩き 	氷上歩き 	雑巾がけ 	





【図 6】素材の使い方による遊び「操作する」

素材の特徴が現れた遊び		共通して現れた遊び
 <p>ダンボール</p>	<p>電車 ソリ遊び ゴーカート</p>  <p>ニワトリ</p>	<p>＜振り回す＞ ヘリコプター</p> 
 <p>布</p>	<p>投げる 戦いごっこ 縄跳び ソリ遊び 鳥</p>  <p>網引き プロペラ</p>	<p>コマ 凧揚げ</p> 
 <p>新聞紙</p>	<p>チャンバラ サッカー お掃除 投げる</p>  <p>落ち葉</p>	<p>戦いごっこ</p> 

【図 7】素材の使い方による遊び「からだにつける」

素材の特徴が現れた遊び		共通して現れた遊び
 <p>ダンボール</p>	<p>キャタピラー ロボット おばけ</p>  <p>ミノムシ</p>	<p>＜からだに巻く・被る＞ スカート 蓑傘</p> 
 <p>布</p>	<p>おばけ マント ボクシング ゾンビ</p> 	<p>ドレス 忍者</p> 
 <p>新聞紙</p>	<p>洋服 スカート マフラー 帽子 大砲</p> 	<p>スカート カッパ</p> 

【図8】素材の特徴と遊び

素材の特徴		特徴的な遊び		
 <p>ダンボール</p>	<p>立てる 置く</p>	 <p>お風呂</p>	 <p>お店屋さんごっこ</p>	 <p>迷路で鬼ごっこ</p>
 <p>布</p>	<p>振る・回す 投げる 纏う</p>	 <p>振って遊ぶ</p>	 <p>縄跳び</p>	 <p>お姫様ごっこ</p>
 <p>新聞紙</p>	<p>折る 畳む ねじる ちぎる</p>	 <p>道具の作製</p>	 <p>戦いごっこ</p>	 <p>落ち葉・雪遊び</p>

- ・ドレス、スカート（背中、腰部に巻く）：①②③
- ・洋服（破った穴から頭を出す）：③
- ・ハチマキ、帽子（頭に巻く）：③
- ・ボクシング（手に巻きつけてパンチする）：②

考 察

今回、素材の違いに着目して主体的な遊び（身体活動・身体表現遊び）がどのように表出したか検討した。その結果、どの素材遊びにおいても幼児は、自分のイメージの世界にひたり、現実と虚構の世界を行ったり来たりしながら、からだ全体で自分のイメージを表現して遊ぶ様子が確認され、また、仲間とイメージを共有して一緒に遊びながら喜びを味わっている様子も窺えた。このことから、身近にある素材は、幼児のイメージを喚起し、幼児の遊び込みに有効に働きかけることが再確認された。

ただし、その遊びには素材の特徴が現れていた。ダンボール遊びでは、3つの素材の中で唯一「立てて置く」ことができることから「風呂、家」などの建造物を組み立てる遊びが遊び始めから出現し、その遊びは終始繰り返され、その建造物からイメージする「ごっこ遊び」に発展するケースが多くみられた。

布遊びでは、「振る・回す・投げる」遊びを盛んに

行い、その動きからイメージする遊びへと発展していった。また、布の特徴を捉えた遊びも多く出現し、男児ではマントに見立てて仲間とのヒーローごっこに発展し、女児ではからだに巻きつけてスカートやドレスに見立てた遊びがみられた。

新聞紙遊びでは、まず座って「折る・畳む」ことから始まり、遊びの途中でも度々みられた。新聞紙は造形表現等で使用することも多く、「紙」という素材の観念から「折る・畳む」遊びとなったことが推察された。ただし、遊び始めこそ「折る・畳む」ことに集中し、身体活動を伴う遊びは表れなかったが、やがてその「折ったもの・作ったもの」を使った「ごっこ遊び」へ発展し、活発にからだを使って遊ぶ様子がみられるようになった。

このように、幼児はその素材の特徴を活かした遊びを見つけ出し、その作り上がったものからイメージして遊び込むことが考えられ、想像から創造へ、創造から想像へと発展することが示唆された。しかし、これらの遊びは、幼児の経験・体験に基づくもので、その遊びの中心は生活体験が主であり、その範疇から出ることはなく、さらに発展した遊び込みには至らないケースが多くみられた。

秋田¹⁶⁾は、「『遊びこむ』『打ちこむ』『のめりこむ』

といった『〇〇こむ』経験が幼児期の発達にとって、欠かすことのできない意味のあるもの」とし、「『遊びこんでいる』とは、第一に『没入している』状態、集中している状態であり、第二にその子どもたちならではの発想によって遊びが展開継続している過程にある状態であり、第三に遊びの素材を使いこなし、わが物としていく状況といえる」と述べている。このことから本研究における幼児の遊びの状況を確認してみると、集中し遊びに没入してはいるものの、その遊び自体は単発であることが多く、展開継続することは少なかつた。また、素材から想像するモノを生み出し（創造）、創造したモノからさらに想像へと発展する傾向はみられたが、それまでに経験した生活体験から発展することはなく、「素材を使いこなし、わが物としていく状況」や「その子どもたちならではの発想によって遊びが展開継続している過程にある状態」までには達していなかつた。

また、身体活動・身体表現遊びのねらいは、幼児が環境から刺激を受け、イメージを持って主体的に遊ぶことにある。今回、身近な3つの素材を使った環境設定による検証では、それぞれの素材の特徴を活かした遊びに発展することは認められた。しかし、十分な身体活動を伴った豊かにイメージを持った活動にまでは達していないのではないかと推察された。

これらのことから、幼児が遊び込み、身体活動・身体表現遊びのねらいを達成するためには、ただ素材を提供するだけでなく保育者の何らかの手立ての必要性が示唆された。

鈴木¹⁷⁾は、近年の子どもの体力・運動能力の低下や身体活動量の減少に対する問題解決に向けて、「遊び込む」ことの重要性を述べ、秋田¹⁶⁾が提唱した「遊び込む」という概念を具体化する尺度を開発している。それによると、幼児の「遊び込める」姿に含まれる要素は「受容・共感・応答の循環」「環境への能動」「探求への意欲」「創造・想像の収束と実現」「親和と共有」の5要因23項目にまとめられるとしている。

幼児期における「遊び込む」ことの重要性を踏まえ、鈴木¹⁷⁾がまとめた尺度の「遊び込める」姿の要素に鑑み、今後、本研究を客観的に考察し、保育者の手立ての要因を探ることも重要であると考えられた。

まとめ

素材遊びの検証を深めることを目的に、これまで実施してきた身近にある素材の「ダンボール」と「布」に、保育現場で頻繁に用いられている「新聞紙」を加え、幼児の素材を使った遊び（身体活動・身体表現遊び）について素材の違いに着目して検証した。その結果、以下のことが分かった。

- (1) どの素材遊びにおいても自分のイメージの世界にひたり、現実と虚構の世界を行ったり来たりしながら、からだ全体で自分のイメージを表現して遊ぶ様子が確認された。このことから、身近にある素材は、幼児のイメージを喚起し、幼児の遊び込みに有効に働きかけることが確認された。
- (2) 幼児は、素材の特徴を活かした遊びのなかでその素材からイメージするコトで遊び、モノを作り出す。そしてさらに、その作り出したモノからイメージする遊びに発展することがわかった。よって、素材を使った遊びは、想像から創造へ、創造から想像へ発展することが考えられた。
- (3) 身体活動・身体表現遊びのねらいは、環境から刺激を受け、イメージをもって主体的に遊ぶことにある。本研究では、素材の特徴を活かした主体的な遊びを展開することは認められた。ただ、その遊びの大半は「生活体験」によるものがほとんどであった。このことから、さらにイメージ豊かな身体（表現）遊びにするには、ただ素材を提供するだけでなく、保育者の手立ての必要性が示唆された。

参考・引用文献

- 1) 文部科学省：幼稚園教育要領（平成29年告示）. 2017.
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針（平成29年告示）. 2017.
- 3) 内閣府，文部科学省，厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）. 2017.

- 4) ジェームズ・J・ヘックマン (古草秀子訳) : 幼児教育の経済学, 東洋経済新報社.2015. (Heckman, James, J : Giving Kids a Fair Chance : Massachusetts Institute of Technology, 2013)
- 5) 幼児期運動指針策定委員会 : 幼児期運動指針. 文部科学省. 2012.
- 6) 幼児期運動指針策定委員会 : 幼児期運動指針ガイドブック 毎日, 楽しく体を動かすために. 文部科学省. 2012.
- 7) 瀧信子, 矢野咲子, 怡土ゆき絵, 青木理子, 小川鮎子, 小松恵理子, 高原和子 : 5歳児の多様な運動経験に繋がる自発的なダンボール遊びの有用性. 福岡こども短期大学研究紀要, 28, 19-27, 2017.
- 8) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子, 小川鮎子, 小松恵理子 : 幼児の自発的なダンボール遊びにおける動きの内容. 福岡女学院大学大学院紀要 発達教育学, 6, 33-45, 2018.
- 9) 瀧信子, 高原和子, 宮嶋郁恵, 矢野咲子 : 5歳児にみられた布遊び. 九州体育・スポーツ学会第68回大会. 2019.
- 10) 瀧信子, 矢野咲子, 高原和子, 宮嶋郁恵, : 3歳児の多様な運動経験に繋がる自発的なダンボール遊びの有用性. 福岡こども短期大学研究紀要, 31, 1-10, 2020.
- 11) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子, 宮嶋郁恵, 本山司 : 幼児の素材遊びの検討ーダンボール遊びと布遊びを比較してー. 福岡女学院大学大学院紀要 発達教育学, 8, 1-10, 2020.
- 12) 高原和子, 瀧信子, 宮嶋郁恵, 矢野咲子 : 4歳児にみられたダンボール遊びの実態. 福岡女学院大学紀要. 人間関係学部編. 21, 29-36, 2020.
- 13) 13) 高原和子, 瀧信子, 宮嶋郁恵, 矢野咲子 : 5歳児の発達と布遊び. 日本保育学会第74回大会, 2021.
- 14) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子 : 幼児の豊かな身体表現の出現ーダンボールの有用性ー. 福岡女学院大学紀要. 人間関係学部編. 19, 67-73, 2018.
- 15) 高原和子, 瀧信子, 宮嶋郁恵, 矢野咲子 : 素材を利用した身体表現遊びの検討ー「布」の有用性ー. 福岡女学院大学紀要. 人間関係学部編. 23, 49-58, 2022.
- 16) 秋田喜代美 : 保育の心もち. ひかりのくに. 24-25, 2009.
- 17) 鈴木裕子 : 幼児の「遊び込める」姿に含まれる要素の検討. こども環境学研究. 12 (2), 54-62, 2016.

付 記

本論文は、演題名「素材の違いにおける主体的な身体表現遊びー素材（ダンボール・布・新聞紙）の比較ー」として日本保育学会第75回大会でポスター発表したものを加筆・修正したものである。